

福島子どもプロジェクト 2022 夏

世界遺産の厳島神社、原爆ドームへ行く
広島・夏のピーススタディー

活動の記録



PEACE
BOAT

PBV
ピースボート
災害支援センター



福島子どもプロジェクトとは

2011 年の東日本大震災と原発事故直後、福島県の子どもたちは「屋外で十分に身体を動かせない」「仮設校舎や避難先で落ち着いて勉強できない」など厳しい生活環境を余儀なくされました。

そこでピースボートは、子どもたちに夢と健康を届けたいとの思いから、保養と国際交流体験を提供する「福島子どもプロジェクト」を震災直後に立ち上げました。そして、船上での体験プログラムや滞在型の環境学習など、さまざまな取り組みを実施してきました。

このプロジェクトは、南相馬の子どもたちに保養や教育を提供する NPO「南相馬こどものつばさ」など現地パートナー団体と協力しつつ、ピースボートとピースボート災害支援センター（PBV）が共同で実施しています。

福島の子どもたちが置かれた状況は、時間と共に変化し複雑にもなっていますが、ピースボートは子どもたちのさまざまなニーズを聞き取りながら、支援活動を続けていきます。

プロジェクト呼びかけ人

加藤登紀子（歌手） / 鎌田實（諏訪中央病院名誉院長） / 香山リカ（精神科医） / 田中優（環境活動家）

現地パートナー団体

当プロジェクトは、2011 年の初回より、「南相馬こどものつばさ」とのパートナーシップにより実施しています。同団体が、ピースボートとの綿密な協議のもと、子どもたちの選考と送り出し、学校との調整、引率者の派遣を行っております。

特定非営利活動法人 南相馬こどものつばさ

放射能の影響により、戸外での活動制限が続いた子どもたちを心身ともに解放したいという願いから、2011 年 6 月に南相馬市に発足。市内小中学校 PTA 連絡協議会のメンバーと県外受け入れ団体が協力し、学校の長期休暇に子どもたちを保養プログラムに送り出す活動を続けている。

<https://www.kodomonotsubasa.com/>

福島子どもプロジェクトのこれまで

これまでにのべ 100 名以上の子どもたちが福島子どもプロジェクトに参加をしました。

「夏休みアジアクルーズ 2011」(2011 年 7~8 月)

南相馬市の中学生 49 名がピースボートの船旅に約一週間参加。

ベトナムでの枯葉剤被害者との交流や、スリランカ大統領夫人との面会、2004 年のスマトラ島沖地震による津波の被害者とも交流。

「夏休み 福島×ベネズエラ音楽交流プログラム」(2012 年 7~8 月)

福島の高校生 7 名がピースボートの船旅に約一か月参加。

米国やメキシコで現地楽団と合同コンサートを行ない、船上でベネズエラ「エル・システム」のメンバーと交流。帰国後には歌手の加藤登紀子さんや NTT 東日本東京吹奏楽団のメンバーらと交えたコンサートを東京都内で実施。

「2013 春 in オーストラリア」(2013 年 3 月)

南相馬市の中学生 12 名がオーストラリアの家庭でホームステイを行う。

現地の学校訪問や風力発電施設やパーマカルチャーガーデンでの環境教育等を通して、持続可能な地球の未来について考えた。

「2014 春：異文化を体験するアジア国際交流の旅」(2014 年 3 月)

南相馬市の中学生 12 名がピースボートの船旅に参加。

シンガポールでのアート・ワークショップ体験や、スリランカの津波経験者との交流を行う。

「2015 年 春：海でつながるアジア 自然と歴史を学ぶ旅」(2015 年 3 月-4 月)

南相馬市の中学生 12 名がピースボートの船旅に参加。

韓国の済州島では火山島の森のトレッキングや餅作り体験を通して自然との共存について、広島では原爆ドームなどを訪れ戦争と平和について学びました。

「福島子どもプロジェクト 2016 年 夏：平和なアジアは友達作りから」(2016 年 7 月-8 月)

南相馬の中学生 11 名、熊本地震で被災した南阿蘇村の小中学生 25 名がピースボートの日韓クルーズに参加。

船内で多国籍の参加者と交流、長崎の平和公園、沖縄では南部戦跡を訪れ、平和について考えました。

「福島子どもプロジェクト 2017 年 夏：南相馬から世界へ 海で繋がるロシア・韓国・日本」(2017 年 7 月-8 月)

南相馬市の中高生 11 名がピースボートの日韓クルーズに参加。

船内での国際交流だけでなく、韓国の麗水では歴史を学び、ロシアのウラジオストックでは地元のボーイスカウトのサマーキャンプに参加し、異文化体験をしました。

「福島子どもプロジェクト 2019 年 夏：東アジア国際交流の船旅」(2019 年 8 月)

南相馬市、相馬市の中学生 3 名がピースボートの船旅に参加。

北海道では泊原発を見学し原発について考え、暮らしとエネルギーについて学びました。宮城では石巻市の街歩きを通して、津波の被害と復興について考えました。

福島子どもプロジェクト 2022 夏

2019 年を最後に、新型コロナウイルスの影響によりプロジェクトが中止となっていました。今年には 3 年ぶりの開催となりました。ピースボートクルーズが休止中のため、陸上でのプログラムを実施しました。南相馬市から 2 名の中学生が参加し、平和記念式典を行う 8 月 6 日を含む日程で広島を訪れ、原爆の歴史やもたらした影響力、平和の大切さなどを学びました。

◆プロジェクト実施

2022 年 8 月 3 日（水）～2022 年 8 月 7 日（日）/計 5 日間

◆行程概要

日付	活動内容
8 月 3 日（水）	南相馬市出発、陸路で仙台空港へ 空路にて広島空港経由し、陸路にて広島市内へ 広島市内散策
8 月 4 日（木）	広島市内にある原爆遺構巡り ピースガイドによる平和記念公園スタディーツアー 平和記念資料館訪問、被爆体験聴講
8 月 5 日（金）	大久野島にて平和学習 （毒ガス資料館訪問、島内フィールドワーク） 尾道市内散策
8 月 6 日（土）	平和祈念式典見学 宮島観光 オンラインピアノコンサート見学
8 月 7 日（日）	陸路にて広島空港へ 空路にて仙台空港経由し、陸路にて南相馬市へ 男山八幡宮にて解団式

◆参加生徒

平翔吾（南相馬市立原町第三中学校：1 年） / 渡邊実桜莉（南相馬市立鹿島中学校：1 年）

◆引率スタッフ

橋本舞（引率スタッフ：ピースボートスタッフ） /

内田雅人（引率スタッフ：南相馬こどものつばさ） / 佐藤久絵（同行スタッフ：カリタス南相馬）

◆ピースボート事務局

越智信一郎 / 畠山澄子 / 川崎哲（コーディネーター）

活動の記録

◆ 8月1日（月）

プロジェクトに先立ち、門馬和夫南相馬市長を表敬訪問しました。



◆ 8月3日（水） / 1日目

早朝、男山八幡宮に集合し出発式。家族に見送られ、空路にて広島空港へ。広島空港にてピースボートスタッフの橋本と合流し、今回のプロジェクトメンバーが揃いました。

参加者の二人とも広島に来るのが初めてということもあり、1日目は「広島に来た！」と感じてもらえ、お好み焼きからスタート。飛行機が初めてという参加者もいたので緊張しているかなと心配しましたが、食欲も旺盛でしっかりお好み焼きを堪能。

午後は市内を散策し、広島城やおりづるタワーを訪れました。



◆ 8月4日（木） / 2日目

「原爆と平和」をテーマに、市内の原爆遺構巡りや、被爆体験聴講を行ないました。当時、被爆者の避難場所・救護所となるとともに、児童・教職員の安否や地域の住民等の安否を尋ねる場となった袋町小学校。その校舎の一部を保存し資料館として開設された「袋町小学校資料館」、原爆爆弾の爆心地となった島病院（現：島内科医院）を訪れました。

その後、ピースガイドによる平和記念公園のガイドツアー。現在は公園となっていますが当時は市内の中心的な繁華街だったこと、原爆の被害にあったのは労働者として強制連行されていた朝鮮人や捕虜として捕まっていた兵士など日本人だけでないことを教わりました。

午後は平和資料館を訪問。実際の遺品や原子爆弾の開発から投下の流れまでを学び、「授業で教科書の写

真を見たときには何も思わなかったけれど、実際に遺品を見たことで、原爆が落とされたことを実感した」と感想を教えてくださいました。

そして、当時3歳で被爆をした伊藤正雄さんの被爆体験を聴講。被爆のことだけでなく、なぜ第二次世界大戦がはじまり原爆が落とされることになったのかななどの歴史的背景も話してくださいました。

参加者2名とも、被爆体験を聞くのが初めてだったこともあり「原爆で家族を亡くした」という内容に衝撃を受けていました。



◆ 8月5日（金） / 3日目

バスとフェリーを乗り継いで瀬戸内海にある大久野島を訪問。ここは戦時中、日本陸軍の毒ガス工場があった場所です。

高校の社会科の先生をしていた山内正之さんがガイドとなり、毒ガス資料館の展示や島に残る様々な遺跡を巡りながら、島がたどった戦争の歴史を丁寧に説明してくれました。「防護服を着ていても、毒ガスは少しずつ体に影響を与える」という状況は、福島原発で除染作業を行う作業員とも共通する部分でもあるため、身近にある事例と重ね合わせて理解をしていました。

また山内さんは、戦争をすれば被害を受けるだけでなく加害をする側にもなるということ、そして戦争のことを話すときはどちらの面も切り離して話すことはできないと教えてくださいました。「毒ガスの矛先が戦地で使用された土地の



人々だけでなく、製造していた大久野島の住民自体も毒ガスの被害を受けていたという話が印象に残った」と中学生。現在、大久野島はウサギの島としても有名なため、ウサギと戯れたり記念写真を撮ったりもしました。

大久野島の後は電車にて移動し尾道散策。晩ご飯には名物である尾道ラーメンを堪能しました。

◆ 8月6日(土) / 4日目

平和記念式典が行われる日。感染症対策のため、平和記念公園内は入場制限がかかっていましたが、公園へ向かい式典当日のその場の雰囲気や訪れている人の多さを実感してもらいました。

2日目に訪れたときは比にならない人の多さや、公園内のあちこちで行われている中継や読経、デモなどに驚きながらも「これだけ人が集まるということは、8月6日がどれだけ大切にされている日なのかがわかった」とのこと。

その後は路面電車にて宮島へ移動。二人とも一番楽しみにしていた場所でもあります。現在、大鳥居は改修中のため囲いがしてありましたが、今の状況がかなり珍しいという説明を受けたくさん写真を撮っていました。自由時間も取り、もみじ饅頭を味わったりお土産のお守りを購入したりとまた一つ思い出が増える時間となりました。

再び広島市内へと戻り灯籠流しを見学。コロナの感染拡大を防ぐため、自分たちで灯籠を流すことはできませんが、周りが少しずつ暗くなるにつれてはっきりと浮かび上がってくる灯籠の灯りを何度も写真に収めていました。

その後、公園内のレストハウスを訪れ、原爆を生き延びた「明子さんのピアノ」のコンサートイベントを見学。ピアノが奏でる優しい音色に耳を傾けながら、国内外に向けてたくさんイベントが配信されていることを実感する機会になりました。

◆ 8月7日(日) / 5日目

バスセンターにて、今プロジェクトをやり遂げた二人へ修了証を授与。

バス・飛行機を乗り継ぎ南相馬市へ向けて出発。たくさんの経験とお土産話を持って無事に保護者が待つ男山八幡神社へと戻り、解団式を行ないました。



旅の成果

4泊5日の旅の中で、新しい仲間との交流や初めての場所を訪れたり、日常とは違う体験を楽しみました。また、被爆体験者から当時の話を聞いたり戦争遺構を見たりして、核兵器などの被ばくによる影響や平和について学びました。

◆ 参加した子どもたちと保護者の声（感想文から抜粋）

「たくさんの方が核兵器は必要ないと訴えている中で、日本政府の核に対する考え方や対策に疑問を持った」

「広島を訪れたからこそ、原子爆弾で14万人以上の方が亡くなったという出来事が起きたことを実感できた。あと、もう一度宮島を訪れて、鳥居と自然と厳島の歴史を知りたい。」

「今回の旅の思い出を聞いて、『戦争は昔のこと』で終わらせるのではなく今のみんなが戦争の悲惨さを伝え続け繰り返さないようにしなくてはならないと、改めて思いました」

◆ 引率スタッフより

平和学習だけでなく、初めての場所を訪れ初めての経験をする。

この4泊5日でかなりの情報量が二人のなかにインプットされたと思います。オンラインでも国内各地や世界を知ることができる時代となりましたが、二人の感想を聞いて「現地を訪れて、その場の雰囲気を感じる、実際に見たり聞いたりして学ぶこと」の大切さと影響力の大きさを改めて実感しました。

今回の経験を、自分が学び体験するだけでなく、その経験を人に話し、伝えるというアウトプットの大切さや、人と世界と繋がる楽しさを知るきっかけにしてほしいと思っています。

初日の緊張が少しずつほぐれ、二人が笑顔を見せてくれたり自分の考えを積極的に話すようになってくれたりと、参加者の変化と成長を感じる5日間でした。

（ピースポート：引率スタッフ 橋本舞）

新型コロナウイルス感染症の影響により3年ぶりの開催となった福島子どもプロジェクト。南相馬市の中学生男女各1名が参加し出発前に南相馬市長と教育長の元を訪れて決意表明を行いプロジェクトのスタートを切りました。今回は1日の洋上生活もない毎日路面電車で揺られる全編丘の上での行程。真夏の広島で熱く濃密な時間を過ごすいい旅になりました。

平和記念公園と大久野島でガイドツアーを通しての平和学習やフィールドワーク。その間に千羽鶴の奉納、平和資料館や被爆遺構の見学、被爆体験を聴講。

教科書に載っている戦争についての出来事を実物の遺品を目にしたたり体験を直接耳にすることにより核兵器の非人道性や戦争の恐ろしさをあらためて感じ、また8月6日早朝に平和記念公園を訪れた際には厳粛の中で営まれた平和祈念式典を目の当たりにし平和への強い思いを感じることができました。

さらに広島文化と歴史に触れるための観光として、宮島では厳島神社を代表とする世界遺産の景勝地をめぐり、尾道ではレトロな雰囲気が漂うアーケード街と潮風を肌で感じるおしゃれな海岸通りを散策。美しい自然や街並みを堪能することができました。食を楽しむのも旅の醍醐味で広島お好み焼・もみじまんじゅう・あなご飯に尾道ラーメンなどご当地グルメも満喫しました。

全日お世話になったゲストハウスでの日常では多くの外国人の方が滞在していて言語や文化の多様性を感じることができたものと考えます。

新型コロナウイルスの流行やロシアのウクライナ侵攻など不安定な世界情勢が続くいまだからこそ平和文化を確立しより良い安全な世界となることを心から願うとともに自分たちの将来や大切な人の幸せをあらためて考えてほしいと思います。

最後に今プロジェクトの催行にあたり携わっていただいたすべての皆さまに感謝を申し上げます。ありがとうございました。

(南相馬こどものつばさ：引率スタッフ 内田雅人)

メディア掲載

▼2022年8月3日掲載：福島民報

広島で「平和」を考える

南相馬のNPO 中学生2人派遣

南相馬市のNPO法人南相馬こどものつばさは3日から七日まで、平和について考える広島県へのツアー「ピーススタディー」に市内の中学生2人を派遣する。

ツアーは国際交流NPOピーススポーツセンターが主催する。市



ピーススタディー参加の報告に臨む（左から）渡辺さん、平さん、大和田市教育長、門馬市長

内から原町三中一年の平翔吾さん（こ）と鹿島中一年の渡辺美桜莉さん（こ）が参加する。広島市の広島平和記念資料館、世界遺産の原爆ドームを訪問し、被爆証言を聞く。大久野島の戦争遺跡も訪れる。六日には広島市で開催される平和記念式典に参列する。

出発を前に一日、平さんと渡辺さんが南相馬市役所を訪れ、門馬和夫市長と大和田博行市教育長に参加を報告した。平さんと渡辺さんは「広島には興味があった。核兵器を無くすにはどうしたらいいか、考えるきっかけにしたい」と抱負を述べた。

南相馬こどものつばさは西道典代表、内田雅人理事、佐藤久絵さんが一緒に訪れた。

日本大震災と東京電力福島第一原発事故後の夏休み、アジアや米国、欧州などに市内の小中学、高校生を派遣している。新型コロナウイルスの影響で一昨年、昨年は中止しており、三年ぶりの実施となる。



山内さんから大久野島の説明を受ける（右から）渡辺さんと平さん

広島で平和を理解

南相馬NPO 中学生を派遣

南相馬市のNPO法人南相馬こどものつばさはの派遣事業に参加した原町三中一年の平翔吾さん（こ）と鹿島中一年の渡辺美桜莉さん（こ）は七日までの五日間、広島県を訪れ、平和について理解を深めた。

国際交流NPOピーススポーツとピーススポーツ災害支援センターが主催する「ピーススタディー」に派遣された。広島市の広島平和記念資料館や世界遺産の原爆ドームなどを訪問した。資料館では展示されている服などの遺品を見て、「原爆投下は現実にとったことだったんだ」と実感していた。平和記念公園内の原爆の子の像に千羽鶴をささげた。

戦時中、当時の陸軍によって毒ガスが製造されていた大久野（おおくの）島も訪れた。元高校教諭の山内正之さんの案内で、島内の毒ガス資料館や戦争に関するさまざまな遺跡を巡った。「毒ガスの矛先が向いた人々だけでなく、製造していた島の住民自体も毒ガスの被害を受けていた」という話が印象に残った」と平さんと渡辺さんは振り返っていた。

六日は平和記念式典が行われた平和記念公園を訪れた。原爆投下の悲慘さをあらためて感じ、核兵器根絶の願いを込めていた。

2022年8月15日掲載：福島民報 ▶